

日本標準時子午線上で 時と宇宙と人をつなぐミュージアム 天文科学館リニューアル

市立天文科学館は「時のまち明石」のシンボルとして東経135度日本標準時子午線の真上に建つ博物館です。同館は7月30日にリニューアル・オープンし、より快適に、より楽しく「時」「宇宙」とのつながりを感じられるミュージアムへ生まれ変わりました。現役国内最古のプラネタリウムはそのままに、子どもから大人まで、新しい発見に出会える天文科学館へ、ぜひお越しください。

お問い合わせ／天文科学館
(TEL)919-5000 (FAX)919-6000

天文科学館
ホームページ
はこちら

迫力のある映像と音響で 多彩な投影が可能に

国内で現役最古のプラネタリウム投影機は引き続き活躍。星空のもとになる恒星原板の修繕により、星空はもっと美しく。ドーム映像や音響設備も更新し、惑星の迫力ある映像や宇宙空間に浮かんでいるような臨場感をぜひ体験してください。

星空の
美しさに感激

学芸員による生解説も
見どころのひとつ

国際プラネタリウム
協会が見学に(6月27日)

これだけ古い現役の投影機は
世界的にも珍しい。
出会えて私は鳥肌が
立ちました!

アンナ・R・グリーンさん
(ドイツ・イエナ・プラネタリウム運営
・教育担当)

展示が充実 「時のまち明石」を もっと身近に

人々が時を決め、時をはかるために生み出してきた知恵と道具の進化の歩みをまとめた「時計の歴史」の展示や、時計やパソコンの時刻を正確な日本標準時に合わせるために利用された「テレフォン」JY送信機の実機を新たに展示。



テレフォンJY送信機



展示室

「時」の展示
が充実



シゴセンジャーとは時と宇宙を守るヒーロー
ブラック星博士とクイズで戦いながら、
みんなに星空や宇宙のことを伝えているよ。

ブラック星博士

万博のクラゲ日時計がやってきた!



セイコークラゲ日時計

2025年の大阪・関西万博「いのちの遊び場 クラゲ館」で展示された直径2mの「セイコークラゲ日時計」を設置。新たなシンボルとして来場者を迎えます。

日時計広場の
景観も一新

★明石海峡とまちを一望

地上約40mの展望台もフロアや壁面をリニューアル。360度のパノラマで絶景を眺めながらホッと息してみませんか。



リニューアルした展望室

★誰もが利用しやすい施設へ

- ▶おむつ交換台や授乳室、車椅子用の設備も充実
- ▶入館受け付けやショップでのキャッシュレス決済に対応
- ▶観覧環境の向上や大切な展示品を未来に残すため、空調設備や照明設備を更新



キッズスペース

ミュージアム・ショップ

「時」「宇宙」をモチーフにしたグッズを多数販売
お土産や天文ファンへのプレゼントにおすすめ



ほしぞらグラス(北斗七星)

実際に使われていた外壁タイル

リニューアル・オープン
記念グッズ

世界で初めてつくられた プラネタリウムを展示

特別展
「はじめ展～時と宇宙とをつなぐモノガタリ～」



世界に実在する
2機のうちのひとつ

ツァイスI型(2号機)

約100年前、世界で初めて本物のような星空を映し出した投影機「ツァイスI型(2号機)」現代プラネタリウムの原点となった一台を間近で見られる貴重な機会です。

Collection Museum-Omniversum,
The Hague(NL)

期間/12月6日(日)まで

プラネタリウム
の至宝
日本初公開

一般投影 「明石発・宇宙の旅2026」

今夜の星空の紹介とともに、明石市立天文科学館から宇宙の果てまでをめぐる宇宙旅行にでかけます。
期間/8月30日(日)まで



イベントも盛りだくさん

お月見ナイトミュージアム

天文学などの科学を題材にした小説を多数執筆する直木賞作家の伊与原新さんによる講演会と観月会を開催します。

日時 9月26日(土)午後6時30分～9時ごろ
定員 250人
料金 1000円(駐車料金別途200円)
申し込み 8月29日午前9時～9月25日午後5時に同館ホームページで先着順に受け付け

みんなの参加
待ってるよ



伊与原 新さん

★稼働日数日本一 24159日(2026.8.1時点)★

※投影開始時刻・投影時間もリニューアル ※投影時間は約45分

	10:00	11:30	13:00	14:30	16:00
平日	団体予約がある場合のみ	一般投影	一般投影	一般投影	一般投影
土日祝および 学校長期 休業中	キッズ プラネタリウム	一般投影	キッズ プラネタリウム	一般投影	一般投影

クロの日!スペシャル企画 「ブラック星博士の爆笑天文教室」

9月6日(クロの日)にブラック星博士が登場! ダジャレだらけの天文講座を開催します。

日時 9月6日(日)午後1時～(約45分)
定員 270人
料金 観覧料700円のみ(駐車料金別途200円)
申し込み 8月15日午前9時～9月5日午後5時に同館ホームページで先着順に受け付け



あそびにきて
ほしい!

ほかにも楽しいイベントが満載!
詳しくは8面へ



なぜ明石は「時のまち」なの?

1 先人の熱い想い 日本初の子午線標識を建てる

1886年、世界標準時であるイギリスのグリニッジ天文台から東経135度の子午線の時刻が日本の標準時として定められました。

この子午線が明石を通る重要性を広く知らせるため当時の小学校長会が日本初となる子午線標識を設置しました。



日本で最初の子午線標識
(天文町2丁目)

2 まちのシンボル天文科学館 誕生

戦後の復旧の中で、市民の間で天文科学館を建設したいという声があがるように。

日本標準時子午線の真上に建設されました。



1960年6月10日に開館

3 「時」をみんなが大切にしているから

市内には、子午線標識や日時計、時にまつわるモニュメントがたくさんあります。

さらに、先人の想いを受け継ぎながらまちのみんなが「時」を大切に生活しているから「時のまち」と呼ばれています。



山陽人丸前駅のホームに
子午線標識が描かれています

ホーム内には
日本でも
ここだけ
の標識